

全般 1 か月予報

(9月16日から10月15日までの天候見通し)

令和5年9月14日
気象庁 大気海洋部発表

<特に注意を要する事項>

全国的に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

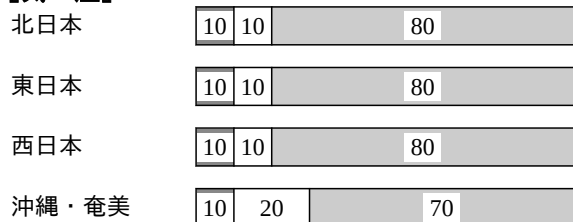
北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。東・西日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、北・東・西日本で高い確率80%、沖縄・奄美で高い確率70%です。降水量は、北日本で平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、北日本で平年並または少ない確率ともに40%です。

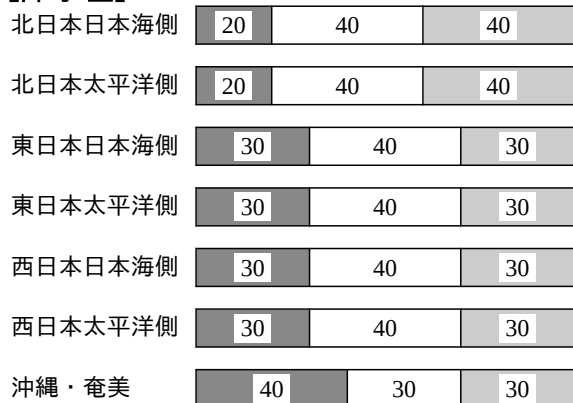
週別の気温は、1週目は、北・東・西日本で高い確率80%、沖縄・奄美で高い確率60%です。2週目は、全国で高い確率80%です。3～4週目は、全国で高い確率60%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

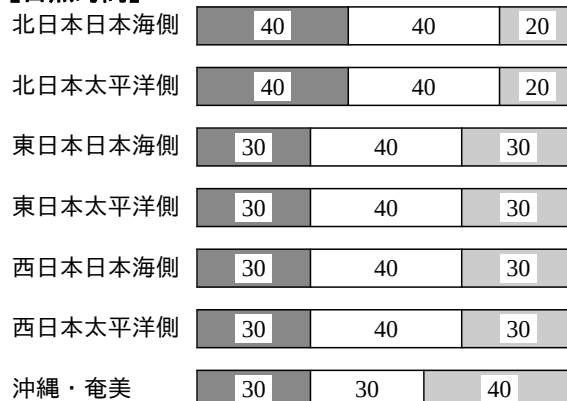
[気温]



[降水量]



[日照時間]

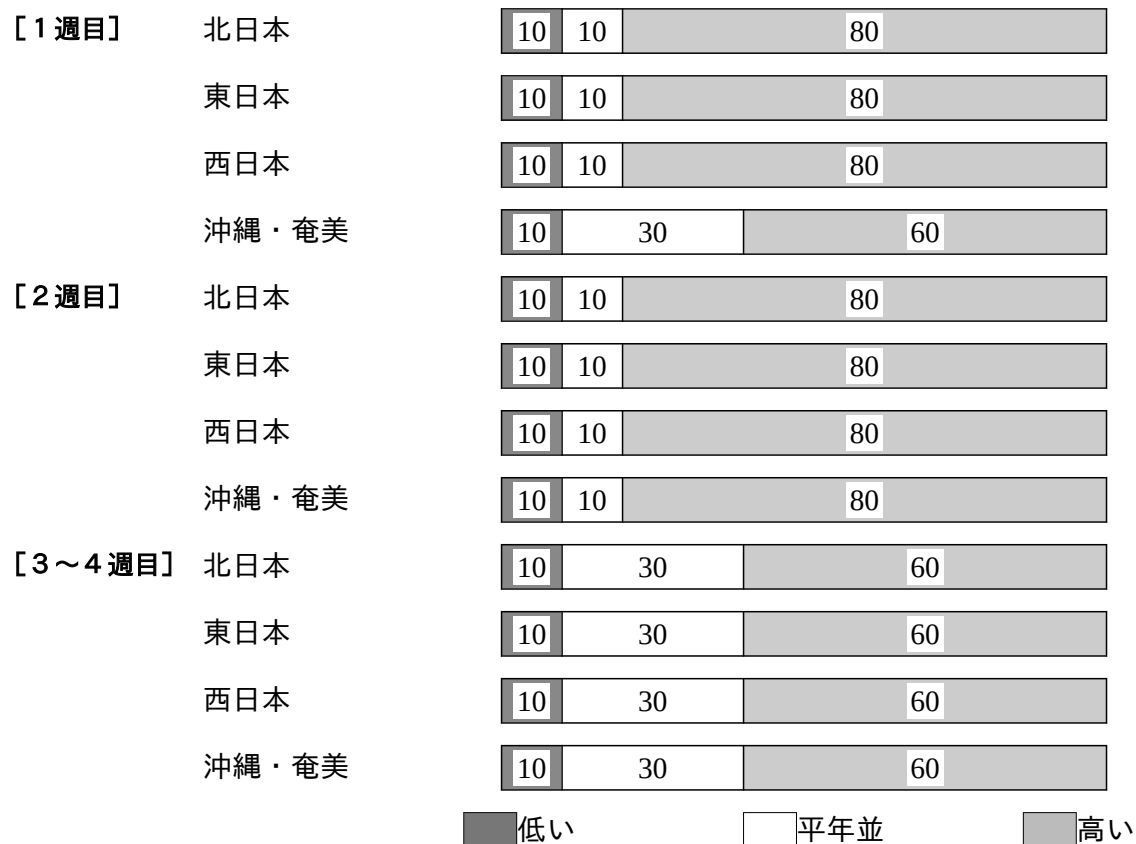


低い(少ない)

平年並

高い(多い)

<気温経過の各階級の確率（％）>



<予報の対象期間>

1か月 : 9月16日（土）～10月15日（日）
 1週目 : 9月16日（土）～ 9月22日（金）
 2週目 : 9月23日（土）～ 9月29日（金）
 3～4週目 : 9月30日（土）～10月13日（金）

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週木曜日 14時30分 次回は9月21日
 3か月予報：9月19日（火） 14時
 寒候期予報：9月19日（火） 14時

<参考資料(平年並の範囲)>

(1) 1991～2020年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差(℃)		降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
北日本	-0.3～+0.5	日本海側 太平洋側	88～106 80～111	96～106 96～107
東日本	-0.4～+0.5	日本海側 太平洋側	80～107 83～110	92～107 91～108
西日本	-0.3～+0.1	日本海側 太平洋側	77～112 77～113	95～107 93～105
沖縄・奄美	-0.2～+0.3		66～114	96～105

(2) この予報期間の1週目、2週目、3～4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3～4週目
北日本	-0.6～+0.6	-0.5～+0.5	-0.5～+0.5
東日本	-0.7～+0.7	-0.6～+0.6	-0.3～+0.5
西日本	-0.5～+0.4	-0.6～+0.4	-0.3～+0.4
沖縄・奄美	-0.2～+0.5	-0.3～+0.4	-0.3～+0.3

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1991～2020年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1よりも多い(少ない)ことを意味します。